

# 北海道旅行記

2016.6.30～7.14

細かくはネット環境がある所ではブログに掲載しましたので、そちらを見て下さい。「[赤沼健治のブログ](http://blogs.yahoo.co.jp/hmwbh354) <http://blogs.yahoo.co.jp/hmwbh354>」

6/30 (木) 自宅 4:30～5:00 前に永井さん達と合流して (永井・赤沼・道姓・長沢・二木の5名)、糸魚川 IC～新潟亀田 IC 経由で 9:00 過ぎに新潟港に到着。10:30 発のフェリーに乗船する。

7/1 (金) 4:30 小樽港着。5:00 小樽 IC～旭川鷹栖 IC 経由で大雪山旭岳ロープウェイ駅に 7:55 着。8:30 発のロープウェイで姿見駅へ。大雪山旭岳山頂に 11:20 着。(日本百名山、北海道の最高峰、2290M、私は2度目)

## 旭岳頂上



天候も良く展望、高山植物を楽しむ。道姓さんは百名山 89 座目となる。11:45 下山開始し 14:25 に駐車場着。15 時過ぎにキトウシ高原ホテルに夕食付で泊まる。明日は雌阿寒岳登山口への

移動・観光日になっていたが、3日の天気予報が悪いので、変更して早朝宿を出て雌阿寒岳に登ってしまう事に変更する。

7/2 (土) 4:00 に出発して層雲峡～三国峠～足寄経由で野中温泉登山口に  
8:25 着。(時間の関係で観光はせずに) 8:45 に登山開始、土曜日で登山者  
も多かった。雌阿寒岳山頂に 11:45 着。(日本百名山、1499M、私は2度目  
の登頂だが前回はガスで火口は見えず展望も無かった) 道姓さん百名山 90 座  
目達成。まずまずの天気で雄阿寒岳・阿寒富士等も展望できた。

メアカンフスマ



メアカンキンバイ



雌阿寒岳



活火山なので火口を覗いた。昨年  
はお盆以降レベル 2 になり登山が  
禁止になっていた。下山後に雨降  
りになりラッキーだった。阿寒湖  
温泉ホテル山水荘に泊まる。

7/3 (日) 朝食前に阿寒湖～アイヌコタンを散策する。朝食後 摩周湖 (残念

ながら霧の摩周湖だった)～硫黄山～屈斜路湖を見物してたんちょう釧路空港へ昼に到着。

### 硫黄山



D・Nさんは 13:40 発の羽田便に搭乗して帰宅する。N・Fさんと「丹頂鶴自然公園」を見物後、開通したばかりの阿寒ICから高速道に乗り本別ICで

降りて273号線で幌加温泉鹿の谷に宿泊する。

7/4 (月) 4時前に宿を出て三国峠を越えて下山口の大雪高原温泉へ向かう。

赤沼の車をデポしてNさんの車で層雲峡温泉へ。Fさんと6:02発のバスに乗って銀泉台へ。7:10登山開始するが霧雨状態で雨具を着る。雪渓を越えてコマクサ平に。ここのコマクサの大群生は見事だ。又大きな雪渓が続く。第三雪渓まではわずかだが竹にテープを巻いた道標があったが、第四雪渓には全く無くて先行者2組が困っていた。踏み後もほとんど見当たらず少し戻ってルートファインディングする。ストックの跡を追うが途中で無くなる。上部に赤岳からの稜線上のルートがあるはずなので強引に急な雪渓を登る事にする。やはり

稜線上の道に出る事が出来た。その先の小泉岳～緑岳間の高山植物散策が今日の主目的だ。ガスと強風で写真も撮りづらい状況で残念だ。

### 緑岳～小泉岳の花見



ユックリ花を眺める気分でもない。例年より花も遅れているが、ホソバウルップソウ・エゾシオガマ・エゾオヤマエンドウ・チョウノスケソウ等々の大群生

地を歩く。

### ホソバウルップソウ



風は相変わらず強く体が飛ばされそうになる。緑岳を下った岩場の風の少ない所でやっと本日も初めてと言って良い休憩らしい休憩を兼ねて昼食をとる。ナキウサギの多い場所で鳴き声は聞

こえるが姿は見えなかった。第二～第一花畑も今年は大きな雪渓が残っていて完全に雪の下。延々と雪渓歩きが続いた。今年はアルプスとは違って積雪量が

多いのに再度驚いた。天候が悪くて休憩らしい休憩をほとんど取らなかったし、ユックリ花を眺める気分でも無かったので予定よりかなり早い14時前に大雪高原温泉着となった。Fさんは初めてなので「ヒグマ情報センター」を見学して、上川町の宿に向かう。15時に民宿岡田屋に到着したら別行動だったNさんも宿に着いていた。

7/5 (火) 5時に宿を出てFさんを旭川空港に送りに行く。早く着きすぎて空港は締まっていた。8:55 発羽田行のエアドゥに乗るFさんと別れてNさんと稚内へ向かう。本当は増毛見物・道の駅おびらニシン番屋でニシン丼を食べたいし、その先の日本海沿いの道路も快適なので増毛経由で行きたいが、時間の関係で道央自動車道を北上し、サロベツ原野を見てから日本海沿いを利尻山を眺めながら稚内市内のルートを取る事にする。「稚咲内」地区からの利尻山の展望は本当に素晴らしい。



←利尻山を望む

この先ずっと利尻山を左に見ながらのドライブとなる。電柱の無い区間を走ったりもする。稚内市内はお祭りで混雑していた。ホテルを探すNさんと別れて宗谷岬

経由で今日の宿猿払村に向かう (いこい家はましたに夕食付で)。日本最北端の宗谷岬は観光客が多かった、特にバイクでのツーリングが。

7/6 (水) 6時過ぎに宿を出て一路網走へ。まずはクッチャロ湖に寄る。



←クッチャロ湖

湖畔のキャンプ場には  
10張りほどのテン泊  
者がいたが、200円  
にしては泊まりたくな  
る設備と景観だった。  
カップ麺を食べて休憩

しさらに「オホーツクライン」を各道の駅に寄りながら走る。特に「おうむ」は名前はいやらしいが(町名が雄武(おうむ)町)良かった。紋別市は国鉄分割・民営化の際に不当解雇された「紋別闘争団」と共闘した国労長野地本で関係の強い都市だ。結局金で解決し、再雇用はされなかったが。道の駅かみゆうべつ温泉で大休止する。鉄道資料館を見学したり、道の駅内にある「チューリップの湯」で入浴。今夜の宿はネットで調べた「いもだんご村」にする。オーナー夫妻が親切で「クチコミ」どうりの安くて良い宿だった。

7/7 (木) 4:30 に宿を出て今回は必ず登ろうと予定している西別岳～摩周岳(カムイヌプリ)の登山口の西別小屋に向かう。分りにくい道で心配したが6:10に無事登山口に到着。北海道一と言えるような幅広で良く整備された登山道を西別岳～摩周岳～西別岳と歩く。天候も良くて展望も含めて素晴らしい

山行になった。(登山口 6:40~7:40 リスケ山 7:50~8:20 西別岳  
8:35~9:12 分岐~9:50 摩周岳 11:10~11:42 分岐~12:40 西  
別岳 12:45~13:50 西別小屋)

西別岳から摩周岳・摩周湖



摩周岳から摩周湖を見下ろす



下山時間も早く、今日は西別小屋に泊まる事にして裏摩周湖展望台と秘湯「からまつの湯」に入浴してから西別小屋に戻る。設備の素晴らしい立派な小屋だ。

7/8 (金) 今日「開陽台」を見物後秘湯「川北の湯」で入浴し、根北峠を越えて斜里町へ。峠先に適当な沢があったので入渓しようとしたら、先客が釣っていたので断念する。居心地が良くて3泊もしてしまった「とほ宿」の「風の子」に顔を出してから藻琴山に向かう。



←藻琴山から屈斜路湖を見下ろす

簡単に登れて展望が良い山として人気がある。整備された立派な藻琴山展望公園から藻琴山を往復する。山頂からの素晴らしい

い展望を楽しむ。今日の宿は「屈斜路原野ユースゲストハウス」。温泉付きで入湯料含めて素泊まり2850円(税込)と安くて良かった。夜は宿泊者と酒を飲んでの交流も楽しかった

7/9 (土) 3時起きで「日の出見物」で人気の津別峠へ行く。結構距離があつて時間がかかったが4時前の日の出には間に合った。YHの泊り客2名もYHのツアーで来ていた。屈斜路湖等は雲海の下で斜里岳～羅臼岳間からの日の出は本当に幻想的・神秘的であった。YHに戻り一休み・朝食を済ませて今日の目的地の津別町に美幌峠経由で向かう。登山モードから釣りモードへの転換である。美幌町で釣り餌を購入して、宿を予約してから240号線の網走川上流に釣り場を求めた。なかなか適当な入渓場所が見つからずとうとう道の駅あいおいの奥まで走ってしまった。やっと水量・川幅の適当な場所が見つかり入渓。ところがオショロコマ・ヤマメの小型ばかりの入れ喰い。早めに納竿して宿へ。宿はネットで急遽見つけた、NPO法人が「引きこもり」対策として設置した「ゲストハウス でてこいランド」。(でてこいとは引きこもりに対して良い名前ですね) 立派な施設で一部屋占拠して素泊まりたったの2000円(税込)。久しぶりにテレビを観ながら一人酒。早く寝る。

7/10 (日) 今日の予定は釣りをしてから安平町のとほ宿へ。朝方まで雨降りですが心配だったが宿を出る頃には止んだ。適当な釣り場を探しながら陸別町を目指す。ケミチャップ川は熊除けの防護柵が川沿いにあつて、峠を越えてし

まう。陸別川の上流で入渓するがニジマスを入れ喰いでいやになってしまう。それと牧場のある下流は牛のし尿等で汚染が問題になっているようで、川の水の色もチョット変な色をしている。辞めようと思っていたら物凄い引きで1号のハリスを切られる。同じ場所に流したら又物凄い引きで今度は糸を切られないように慎重に岸へ引き上げた。大きな太ったニジマスだった。納竿して道の駅「オーロラタウン 93 りくべつ」に寄る。この町は日本最低気温を記録した町で感心があった。足寄を今回の旅では3回通るハメになってしまったが、足寄ICから道東自動車道に乗り一路安平町の宿を目指す。時間が余るので昨年行き損ねた夕張市の「幸福の黄色いハンカチ」思い出広場に行く事にして夕張ICで降りる。



#### ←幸福の黄色いハンカチ

名物「夕張メロン」が安かったが14日帰宅では味が落ちると言われて購入を断念。「幸福の黄色いハンカチ」桃井かおり・武田鉄也の演技力もあり面

白い映画だったが、炭鉱の鉱夫の長屋は大牟田の三池炭鉱以来で懐かしかった。由仁町経由、「ユンニの湯」で入浴して今夜の宿、とほ宿の「旅の轍」に向かう。ここの追分はかつて機関区等があり鉄道の町だった。宿泊料2800円、

夕食1000円(税込)今日の泊り客は2名のみ、鉄道マニアのオーナーと3名で夕食時から宴会に突入する。オーナーが私の住所を見て何と「大雪溪」と言うので車から持参した「大雪溪」1.8L紙パックを出したら驚いていた。(本来とほ宿は21時から飲み会)話がはずみ少し飲み過ぎた。

7/11(月)朝早く宿を出てまずは鉄道資料館へ。今日は今回の旅で必ず登ろうと考えていた「樽前山」(日本二百名山、花の百名山、1041M)登山。登山口の七合目ヒュッテから東山～西山とグルット一回りする。天気も良くて溶岩ドームやタルマエソウの大群生を眺めながらの素晴らしい山行であった。早く下山したので支笏湖で少し釣りをする。魚影の濃い湖で次回はボートから大型のヒメマス・アメマスを狙いたいと思った。今夜の宿を何処にするか悩んだが、小樽のとほ宿「小さな旅の博物館」に決める。3回泊まった事のある宿でオーナーの感じが良い鉄道マニアの宿(1室がミニ鉄道博物館になっている)。ここも今夜はバイク乗りの60代の人、オーナーの3人で夕食時から飲み会に突入した。私が持参した3種類の中では「行者ニンニク」が人気だった。

7/12(火)早朝からパソコンでブログ作成したり、残った2日間どうするか? ネットで調べたりする。結論は奥尻島観光。(何と1993年7月12日に北海道南西沖地震による津波で198名が犠牲になったがそれと同じ日に行く事になった)すでに8時近くになっていたが、ネットで調べたら小樽～せたな港間が172KM、3:34。奥尻島行フェリーは14:05発で島に15:40着。

13日はフェリーが12:05発で13:40にせたな港着。せたな港からは苫小牧東港まで231KM, 3:22で19:30発の新潟港行にユックリ間に合う計算。

9:00前に宿を出てせたな港に向けて走る。宿は途中で予約する。余市を過ぎると観光客も走っている車も少なくなる。途中で三百名山の狩場山を望めた。

(奥尻島からも良く見えた) 民宿こぼやしに素泊まりで泊まる。

7/13 (水) 朝 街中を散歩するが淋しい街だ。9:00発の定期観光バスに乗車して賽の河原・鍋釣岩・奥尻島津波館等を見物する。津波館は後世に地震と津波の恐ろしさを伝える貴重な施設だ。



←奥尻島

無事せたな港に戻り一路苫小牧へ。国縫ICからは道央自動車道なので快適。ただ対面交通の1車線区間が多く、北海道の一般道以下の

70KM位の低速で走るヤカラもいるので困る。苫小牧市内を買い物の為に走行中によそ見運転の車に追突される。旅の終わりに全くもって迷惑だ。警察が入り時間を取られて買い物も中途半端にフェリー乗り場へ。19:30発の敦賀港行に乗船する。

7/14 (木) 朝風呂に入ったり飲酒運転にならないように早めに少し飲んだり、テレビを観たりで過ごす。ロビーで何と西別岳登山で会った長野市のご夫婦と再会する。山の話で盛り上がり、時間もつぶれて良かった。15:30 に新潟港着、新潟亀田 I C から糸魚川 I C 経由で 19:40 に帰宅した。今回は 7/6 以降は宿・行先等全く計画性が無く過ごした。「行き当たりばったり」の良さもあったが、矢張り計画性を持って事前勉強も含めて反省点もある。